

# 症例要約作成の手引き

## ■作成する症例要約数

今年度より提出いただく症例要約数は3例となりました。

**★症例要約では一次性頭痛1例および二次性頭痛1例を必ず含んでください。**

## ■作成方法

すべてパソコンで作成してください。

文字の大きさは11ポイント程度とし、適正な行間で記載してください。

用紙はA4サイズで長さは1症例につき全角文字換算で2,000~2,500字(A4:2枚)を目安とし、原則3,000字を超えないようにして下さい。

報告書の最後に文字数(スペースを含めない)を記入して下さい。

字数が大幅に規定を下回りますと、症例報告書による専門性の評価ができないため不合格となることがありますのでご注意ください。

なお画像を入れて頂いてもかまいませんが、字数には含めません。また画像のコピーの際に十分な画質が得られるようにご注意ください。

★今年度より提出いただく症例要約数が3例になりました分、ご提出いただく症例要約について1症例あたりの字数が増えております。今回、優秀サマリーとして掲載されているものは昨年度までの規定に従い記載されたものとなっております。このため、本年度の規定の字数より文字数が少なくなっておりますので、ご注意ください。

★誤字・脱字などが目立つ場合は不適切な病歴要約として不合格になりますので、教育責任者から署名・捺印をもらう前に必ず十分にご推敲をされてください。

## ■確定診断名

主病名として頭痛疾患名を日本語/英語表記と ICHD-3beta コードとを共に記載してください。

その他副病名があれば記載してください。

略語は不可となります。

## ■現病歴

提出された症例の頭痛を中心に記載し、その他の主・副病名や合併症などがある場合はこれらの病気の経緯も簡潔に言及してください。

## ■プロブレムリスト（必要があれば記載してください）

プロブレムリストは、診断名ではなく患者さんを診察していく上で問題となる項目です。したがって医療面接での問題点、臨床症状、診察所見、検査値の異常などからあげられるものとなります。

しかし、頭痛を主訴とする症例ではあまり複雑な問題点や経過を示す症例が少ないことも多く、今回の症例要約から除きました。

従いまして、多くのプロブレムを有さない症例については省略いただいて結構です。ただし経過が複雑でプロブレムリストが必要となる場合は症例要約記載例その2のようにプロブレムリストを作成いただきそのリストに従って、経過をご説明いただき結構です。

## ■経過

確定診断が複数ある症例ではその診断ごとにご記載ください。もしプロブレムリストを立てられた場合は、上記のとおり、リストに従って、経過をご説明ください。